



2018(平成30)年9月号

怨憎会苦

今年は猛暑日が続き、歴代最高気温を更新した地域が多くありました。記録的な猛暑で、体調を崩された方もおられたことでしょう。ここ最近、ようやく朝晩は過ごしやすくなってきましたが、まだ残暑は続くと思われれますので、体調にはお気を付けてください。今月は秋のお彼岸です。お彼岸には、お墓参りに行かれる方も多いことでしょう。当会館におきましては、23日に秋季彼岸会のお勤めをいたしますので、是非お参りください。しかし毎年のことですが、お盆が終わればすぐに秋彼岸ということ、我々僧侶としても休む暇がないものです。さて、今号では八苦の一つである「怨憎会苦(おんぞうえく)」について味わわせていただきます。怨憎会苦は、お釈迦さまのお示しになられた八つの苦しみの一つで、意味は怨み憎んでいる嫌いな人と会わなければならぬ苦しみのことです。日常生活では、頻繁に起こることです。

私は、毎年お盆明けに少し休みをいただいて同窓会と称し、僧侶仲間と全国各地を回る旅をしています。観光はそこそこに、旅行先の地元の名産物を肴にお酒を飲みながら、近況報告や情報交換などを深夜までするというのがいつもの流れです。この時期が近くと、早く仲間会って語り合いたいと心躍るものです。

しかし、楽しい時間はあっという間に終わり、旅行から帰ってくると当然のように日常生活が待っています。日常の中では、あまり会いたくないと思う方もいますが、そういう訳にもいきません。学校や仕事先、近所のお付き合いなどで、皆さまもこんな経験をしておられるのではないのでしょうか。

小学二年生の長女に対し、試しに「会いたくないなと思う人いる?」と尋ねてみると、「いない!」と即答されました。本当はいるのではないかとさらに聞こうと思いましたが、やめておきました。親としては、いつまでも怨憎会苦などない人生を歩んでほしいと願いますが、これから成長していくと経験していくことでしょう。

お釈迦さまは、四苦八苦という人間の持つ苦しみをお示しになるだけではなく、苦しみだけに終わらない道をお説きくださいました。それが、「拔苦与楽(ばつくよらく)」という教えです。文字のごとく、苦しみを抜き、楽を与えるという意味です。

浄土真宗の七高僧の一人である曇鸞大師は、

**苦を抜くを 慈といふ
楽を与ふるを 悲といふ**

というお言葉を残されました。拔苦与楽とは、阿弥陀さまの慈悲を表すということですが、それも、一時的に楽を与えるというわけではありません。煩惱によつて様々な苦しみから離れられない私たちのために、慈悲のお心で救おうとはたらいてください。

阿弥陀さまは、私たちが嬉しい時や悲しい時、一緒になつて喜び悲しんでくださる方です。どうぞ、秋彼岸にあたり、先立たれた先人を偲びつつ、私を真実の道へと導いてくださる仏さまに手を合わせ、ナモアミダブツとお念仏申す機縁としていただきたく思います。

仏事あれこれ

仏事のQ&A

Q. 位牌は用いる？

A. 過去帳にしましょう

亡き人の法名を刻んだ位牌をお仏壇の中に入れてお宅を、たまに見受けます。位牌の前にお仏飯やお水が供えられていたり、真ん中に置いて、ご本尊が隠れてしまっていたりすることもあります。

これでは何のためにお仏壇を求め、ご本尊をお迎えしたのかわかりません。この位牌が「お仏壇は死者を祀る所」という誤解を助長しているように思われます。この際、浄土真宗では『位牌を用いない』ということをお申しおきましよう。

そもそも位牌は、中国の儒家で用いられたもので、亡き人の官位と姓名を記した牌であり、そこに神霊が宿ると信じられていました。やがて日本の祖先崇拜と結びつき、仏教にも転用され

たのですが、やはり根底に「霊の宿る所」という意識が残っていると云わねばなりません。位牌を亡き人と見立て、生前好きだった食物を供えたり、またのどを潤すために水を供えるのも、こうした意識の表れです。浄土真宗で位牌を用いないのは、そうした仏教にそぐわない霊魂観に基づいたものだからです。



それでは、亡き人を偲ぶよすがは何もないのかと言うとそうではありません。過去帳か法名軸をお使いください。過去帳は、先祖の記録帳のようなもので、亡き人の法名、俗名、死亡年

月日などを記しておきます。命日や法事の際に過去帳を置く場合は台に載せて開け、ご本尊の妨げとならないようにお仏壇の中段脇か、下段に置きます。もちろん、過去帳の前にはお水や食物などはそなえません。また、法名軸はお仏壇の側板にかけるようになります。

なお、すでに位牌がある場合は、手次のお寺の住職にご相談ください。

新・仏事のイロハ』より抜粋

平成30年の年回表 (ご法要のお申し込みをお忘れなく)

| 平成30年 年回表 | |
|-----------|-------|
| 1周忌 | 平成29年 |
| 3回忌 | 平成28年 |
| 7回忌 | 平成24年 |
| 13回忌 | 平成18年 |
| 17回忌 | 平成14年 |
| 23回忌 | 平成8年 |
| 25回忌 | 平成6年 |
| 27回忌 | 平成4年 |
| 33回忌 | 昭和61年 |
| 50回忌 | 昭和44年 |



8月行事の様子

★孟蘭盆会・永代経法要 納涼懇親会 8月12日(日) 13時~17時

当日は天気もなんとか持ちこたえ、38名の方が参拝されました。
法要において先人を偲び、ご講師・松本智量先生よりご法話をいただきました。
懇親会では、冷えた生ビールで乾杯！ビールもあっという間に売り切れました。

法要「読経作法（仏説阿弥陀経）」



主管挨拶



松本 智量師



納涼懇親会



ご講師・松本先生より孟蘭盆会に関するありがたいお話をいただきました。(写真右上)
8月の誕生日の方はなんと6人！月によって随分偏るものです。これからも元気でお待ちしております。(写真下)

8月の誕生日の皆さま



新報編集員に掲載したいと頼まれ、
渋々引き受けました。(右上段) プロ
フィールをはじめ、本願寺職員として
の職歴や、当会館の業務・家族のこと
などにスポットを当て紹介してい
た
できました。
築地本願寺新報を購読希望の方は、
奉讃会にご入会いただくと、無料でお
送りいたします。どうぞ、お気軽にお
申込みください。



築地本願寺新報7月号に
主管が掲載されました！

お知らせ

▶ 9月の行事予定

境内清掃

境内の草取りを中心に行います。
ご協力よろしく願いいたします。
※雨天時は中止となります。

9月8日(土) 午前9時～

親鸞聖人御命日お晨朝総参拝

月に1度、朝のお勤めにお参りしませんか？
お供物のおさがりをプレゼントいたします。

9月16日(日) 午前7時～

千鳥ヶ淵全戦没者追悼法要

今年で38回目となる追悼法要です。
平和への思いを新たにいたしましょう。

9月18日(火)

秋季彼岸会

ご講師 毛利 祥真師
(神奈川県 立徳寺)
秋のお彼岸に亡き人を偲び、
み法(みのり)の秋にしましょう。
お参りの皆さまにおはぎを差し上げます。



9月23日(日) 午後1時～

▶ 10月の行事予定

常例法座

ご講師 龍山 利道師
(埼玉県 教念寺)

10月14日(日) 午後1時～

どうぞ、お気軽にお参りください。

東久留米会館会報 「ともしび」
第269号
発行日 2018年9月1日
発行者 安邊 泰教
住所 東京都東久留米市柳窪5-8-30
電話番号 042-474-6787

今年は、3才の長男が大好きなトミカ(ミニカー)博覧会へ行ってきました。当日、横浜の会場は、家族連れで大賑わい。しかし、展示されているミニカーは触ることができず大泣き。普段のように、自分の手に取って遊びたかったようで、見ているだけでは逆にストレスが溜まった様子。せつかく喜んでくれると思ったのですが、逆効果でした。子ども心は難しいものです。(安)

編集後記

今月のお仏飯米のご進納
佐藤 靖利様
ありがとうございました。